



第23号
 17/11/15
発行
 ことぶき大学
 事務局
 TEL39-2318

**富良野市ことぶき大学三校合同
 主張・実践発表会**

十一月も半ばを迎えました。ことぶき大学の皆さま方におかれましては、ますますご健勝のことと思っております。

さて、市民総合文化祭が終わり、いよいよ本日は、ことぶき大学のメインイベントでもあります三校合同主張・実践発表交流会の当日です。

富良野校、山部校、東山校の各校、各学年におかれましては、この日のための準備で、大変お忙しかっただことと思います。

大変お疲れ様でした。今日は、練習の成果をフルに発揮してほしいと思っております。



ことぶき大学作品



また、文化会館一階ロビーにおきまして三校の作品展が開催されております。

この四月からの各校の学習や各クラブ学習・同好会活動の成果の発表の場でもあります。

本日で終了となりますが、講師の先生方とともに、作品づくりと展示作業等熱心に活動していた姿がとても印象的でした。今後は、卒業作品展の準備ですね。

本日の日程

11月15日(水曜日)

当番 本科3年

「三校実践発表交流会」

9時10分◆朝のついで
 9時45分◆開会式

★学長挨拶

★諸連絡

10時00分◆主張発表◇研究発表

11時50分◆学長講評

12時00分〜12時50分◆昼食・休憩

憩

★昼食及び控室(着替)

昼食…大会議室・控室

控室…富良野校…中会議室・和室B

山部校…第一会議室

東山校…応接室

★午後の準備

13時00分◆実践発表

★発表後全員でことぶき大学校歌を斉唱します。

14時30分◆閉会式・連絡

★一階展示作品撤去

15時15分◆山部校・東山校バス発



**佐藤道子オータム
 コンサート**

サマーコンサートに続き、第一弾「佐藤道子さんによるオータムコンサート」はいかがでしたでしょうか。

季節は秋、秋と言えば、枯葉、枯葉と言えばパリ…佐藤さんには、シヤンソンをお願いしました。オペラ歌手のシヤンソンは大変珍しく、アップライトピアノでの弾き語りはさすが佐藤さんならではの演奏でした。新曲は、自分で楽譜を起こす佐藤



さん、この度の演奏会は、佐藤さんの初挑戦という曲もあったようですので、佐藤さんの前向きな生き方にも感動しました。
佐藤道子さんありがとうございました。

次回の日程

11月29日(水曜日)

当番 大院一年

(午後の会場)しぐらをお願ひします

☆自治会お弁当・余興の締め切り

8時45分◆集合(大ホール)

9時00分◆三校合同科学学習

★お楽しみしぐら

フォーラム

12時00分◆昼食・休憩

13時00分◆映画鑑賞会

★お楽しみしぐら

15時00分

自治会役員会から

先週第4回目の富良野校自治会役員会が開催され、これからの行事等について協議されました。

主に、「年末お楽しみ会」と「新年お楽しみ会」についてでした。

なお、各学年に、自治会からの「とりまとめ用紙」が配布されておりまして、期日までに提出をお願いします。

年末お楽しみ会

日程：12月13日(水)

お弁当・余興のとりまとめ

○用紙配布 11月15日(水)

○締め切り 11月29日(水)

新年お楽しみ会

日程：平成30年1月17日(水)

お弁当のとりまとめ

○用紙配布 11月15日(水)

○締め切り 12月6日(水)

事務局から

役員会の最後に、事務局から新年度に向けてことぶき大学の取り組みについてお話しをさせていただきました。

☆新しい取り組みの現状について
☆地域回覧による「ことぶき通信」

(秋号)「の発行(年4回発行)」
富良野市のホームページ掲載
その他、来年度のことぶき大学につきまして、皆さま方とともに、特色ある新しいことぶき大学を創造できる場を設定したいと思っております。
よろしくお願ひいたします。

漱石文学について

「夏目漱石没100年の読み直し」

「もし千代子を妻にしたら妻の眼から出る強烈な光に堪えられないだろう。その光は必ずしも怒を示すものとは限らない。情の光でも、愛の光でも、若しくは薄仰(かたじけ)の光でも同じことである。」

《彼岸過迄》



連作短編集の構成。「風呂の後」「停留所」「報告」と前半は就活中の啓太郎の話で、就職の世話を頼んだ実業家に、ある人物を尾行する奇妙なアルバイトを持ちかけられ、探偵まが

いにしよちよるするミステリー風な展開が興味深い。

「雨の降る日」からの後半は、啓太郎の知人の須永とこの千代子のお互いに思い合っていないながらもくしゃくしゃする関係を描く。

千代子との結婚は不幸なものになる、と信じて前に踏み出せない須永は、いざ千代子に別れて苦しむ。

「須永の話」「松本の話」と続いて終わるが、須永と千代子がどうなるかは読者の想像に任せられるのだ。

執筆の前半、漱石は5女ひなこを1歳半で亡くした。「彼岸過迄」で愛娘を失った経験を書き、漱石は悲しみを浄化したという。

皆さまからの奇稿を募集

しております。

これからの季節、積雪、道路の凍結およびインフルエンザ等の流行が予想されます。
事故や怪我防止に心がけ、「風邪かな」と思ったら無理をしないで身体を休めることが大切です。お互いに気をつけましょう。